

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年11月30日(金)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

“太郎ワールド”にどっぷりと浸った感動の90分! 『生きる』増田太郎さん教育講演ライブ開催 11/16(金)

人は人の生き方に出会い、感動し、自分の生き方を思う。感動は想像力となり、生きる力となる。生きる力は、また別の一人を感動させ、その連鎖が続いていく。

1・2年生からのメッセージ

■ 私は太郎さんの教育講演ライブでたくさんの勇気をもらうことができました。目が見えないとはとても思えないすばらし演奏でした。きっとたくさんの努力をし、たくさんの涙を流したのではないかと思います。音楽は心で感じるものだと思いました。途中で音響トラブルがあった時、太郎さんは「もう一度初めからやろう！アクシデントがあっても盛り上がっていきよう！」と言いました。私は太郎さんの言葉で、人生の中でいろいろな大変なことが起きても、その時、それをどう受け止めて行動するかで、人生は変わっていくのだろうと思いました。これから何事もあきらめずに最後までやり遂げ、周りの人に感謝できる人間に成長していきたいです。(1年女子生徒)

■ 私は音楽が苦手なので、自分が盛り上がっている空気の中に入って行けるかどうか心配でしたが、想像していた以上に簡単にその空気に入ることができました。その空気に入ってから、太郎さんの演奏している曲を楽しむことができ、一曲一曲の思いを感じることができました。特に印象に残っているのは「生きる」です。特に六連目は僕の中で一番心の中に残りました。太郎さんの講演ライブの時間はとても大切な時間となり、とても勉強になる時間でした。また何かを失っても頑張ることができるということを太郎さんの演奏で知ることができました。太郎さんのようにあきらめないで前を向いて一生懸命に生きていき、誰かを感動させられるような大人になりたいです。(1年男子生徒)

■ 今回の講演ライブはとても楽しく、様々なことに気づくことができました。つらいことがあっても「自分ならできる！」などと自信をもてば、きっとできるというあきらめない気持ちを押しいただきました。私は吹奏楽部に所属し、楽器を吹いていますが、演奏するだけでも難しい楽器を演奏し、歌まで歌う太郎さんを見て、とても感動し、きっとできないことはないんだと思えることができました。ライブ中の太郎さんの表情はとても笑顔で楽しそうでした。音楽というものは、やっぱりenjoyするものということが改めて感じられました。本当に心強い気持ちになれました。(2年女子生徒)

■ 今回の講演ライブで太郎さんの歌声とヴァイオリンがとても大好きになりました。もっともっと聴いていたかったです。また、「生きる」ということについてあまり深く考えたことはなかったけど、この講演ライブで生きていることを考えるきっかけになりました。ヴァイオリンは声を出していないのに、音色だけでその情景と感情も伝わってきました。太郎さんの演奏は心の癒しになりました。私はどんなに辛くて困難なことがあっても、くじけずに一生懸命、今を生きていこうと思います。太郎さんは私の中で憧れです！「人は一人では生きられない。人は一人では生きてはならない」この言葉も忘れられません。(2年女子生徒)

■ 私は吹奏楽部に所属していますが、太郎さんの演奏は私を奮い立たせてくれました。これからは今までと違う意味で、しっかりと音楽と向き合い、今回太郎さんように、私も聴いてくれる人に鳥肌を立てせ、奮い立たせることができる人になりたいです。また、太郎さんの「はやく行きたいなら一人でいけ。遠くまで行きたいなら、誰かと一緒にいけ」という言葉が特に印象に残っています。これからはもっと周りの人達を大切にしていきたいです。(2年女子生徒)



■ 私は今回の講演ライブを聴いて、改めて「生きる」ことの大切さを身にしみて感じる事ができました。太郎さんの他の人には出せない音の色にとってもひかれました。まっすぐな声、体育館いっぱいを満たすヴァイオリンの音にずっと飲み込まれてしまいそうな生演奏でした。トークもとても面白く、聴いている人々をとっても笑顔にして下さいました。私が今日の「生きる」ということについて考えたことがあります。それは、今、ここを生きているということは、誰かのおかげなんだということ。そして、自分が生きていることは誰かの為なんだということです。それは大切な人を失ったら、自分はどう思うか考えてみたらいいと思いました。簡潔に言うと、とても悲しくなります。なぜ悲しくなるのかと考えてみると、支え合って生きているからなんだと思います。人はみんな気付かないところで支え合っている。それを実感させてくれる素晴らしいライブでした。心にしみるヴァイオリン、歌、ピアノのプレゼントありがとうございました。

(2年女子生徒)

■ 私はクラスで道徳の時間に太郎さんの「生きる」について話し合ったことがあります。正直、こんなきれいな事ではないかと思ったり、こんな事まじめに考えている自分がださいとまで思いました。これが演奏を聴くまでの私です。演奏を聴いてからは、今までの考え方がいっきに変わりました。奏でる音色一つ一つにいろいろな思いが込められていて、聴いた瞬間、心の中に何か温かいものを感じました。しばらくして、私はふと太郎さんが盲目であることを思い出しました。失礼ですが、最初私の中で思い浮かべたイメージは、静かで暗そうというものでした。でも、そのイメージとは全く反対で、明るくてイマジネーションのある、すばらしい方でした。障がいがありながら、なぜこんなに力強く「生きる」ことができるのか。そんなことをずっと考えていました。結局、納得のいく答えは見つかりませんでした。このような問いをもつこともまた「生きる」という意味なのではないかと思いました。そんなことを思わせてくれる素敵な演奏でした。まるで夢の中のように、楽しくて温かくて、ずっとずっとこの時が続いてほしいと思いました。今回の講演ライブで初めて太郎さんのことを知りましたが、なぜかずっと近くにいたような心に寄り添ってくれるような演奏でした。「生きる」とはとてもすばらしいことであり、意味があるのだと気付くことができました。(2年女子生徒)



生徒の朗読と太郎さんの演奏のコラボ実現!! 《生きる》

2016年、郡山市立日和田中学校の3年生が、総合学習を『生きる』というテーマで進め、その学習の成果から、生徒一人一人が「生きること」について考え、それぞれがまとめた短文や言葉をつなぎ合わせ《生きる》というタイトルの詩をつくりあげました。あの谷川俊太郎さんの「生きる」という詩をモチーフにしました。その年の12月に講演ライブで来校された増田太郎さんが、この詩(朗読)に楽曲を書き下ろしてくれました。そして、太郎さんが各地でこの曲を演奏する度、「CD化はまだですか?」という声をたくさんいただき、CD《生きる》がついに完成しました。今回の講演ライブでは、この《生きる》の2年生4名の生徒(星大樹君、水口瑛太君、岡田彩音さん、渡部陽夏乃さん)による朗読と太郎さんの演奏のコラボレーションがついに実現しました。感想からも多くの生徒に大きな感動を与えたコラボレーションとなりました。星君、渡部さんのコメントを紹介します。



◆ 今回僕は群読の担当として演奏と一緒に詩を読ませていただきました。リハーサルの時からものすごく緊張しました。ですが、太郎さんの優しいお言葉や迫力のある演奏を聴いているうちに緊張がとけて、リラックスして読むことができました。朗読の後に握手をしましたが、とても温かい手で、太郎さんの人の良さがものすごく伝わってきました。このような時間を作ってください、本当にありがとうございました。(星 大樹)



◆ ヴァイオリン一つで学校全体を盛り上げることができるのは本当にすごいなと思いました。太郎さんは目が見えないというハンディをもっているけど、それ以上に見える素敵なものがあるんだなと思いました。私は最後に詩の朗読をしました。この日のために、いろんな先生の力を借りてたくさん練習しました。本番はやはりたくさん人の前でとても緊張したけど、太郎さんの音色に合わせて詩を読めたことをとても光栄に感じています。太郎さんはとても面白い人でした。目は見えないけれど、目に映るたくさん想像や感情はきっと人を超えるものだと思います。太郎さんを通してたくさんことを学ぶことができました。この経験を忘れず、生きることのすばらしさを心の中にとどめて、今を生きていきたいです。(渡部陽夏乃)